

2018年3月13日 テレビ朝日「報道ステーション」の報告です。

今回の放送で一番時間を割いた話題は「財務省文書書き換え」についての話題でした。

今回はこの話題について検証していきます。

詳しく見ていきましょう。

-----

富川アナ「森友学園への国有地売却に関する決裁文書が改ざんされた問題を受けましてこちら、今日も官邸前にはこれは午後9時過ぎの、つい先ほどの様子なんですが、政府に抗議する声が響いていました。こう集まった人を見てみますと高齢の方もいらっしゃるんですが、若い方も多いんですね。仕事帰りにここに集まったという方も多いようです。では、誰が何のために改ざんをしたのでしょうか。昨日ですね、麻生大臣は財務省理財局の一部職員が行ったと説明したんですが新たにですね、近畿財務局の職員が理財局の指示によって改ざんした部分があることがわかりました。」

-----

番組冒頭、富川アナウンサーが財務省による森友学園への国有地売却についての決裁文書書き換えについて発言。午後9時過ぎの首相官邸前でのデモの様子を背景にして、VTRの前振りを行いました。

-----

午前8時過ぎの首相官邸で

記者「麻生大臣の責任論が高まっていますが？」

安倍晋三総理大臣「おはようございます。」

ナレーター「森友文書の改ざんを財務省が認めてから一夜明け、焦点は麻生大臣の進退に。そして佐川氏と昭恵夫人の証人喚問に。」

そして、首相官邸での麻生財務大臣の記者会見の様子を放映します。

麻生太郎財務大臣「私としても深くお詫びを申し上げたい、ということを昨日申し上げた通りです。」

この麻生大臣の発言を最後にいったんCMに入ります。

↓

CM明け、画面は再び官邸前でのデモの様子を放送します。

ナレーター「前代未聞の公文書の改ざん。総理官邸前では今日もデモが行われました。」

再び麻生大臣の記者会見での様子に切り替わり

記者「記録の改ざんがあった文書そのものがあると大臣が把握したのはいつか？」

麻生財務大臣「3月十何日じゃないか…日曜だったかな。」

記者「理財局がデータの上書をして、書き換え前を廃棄する指示をしたとの報道も。」

麻生財務大臣「それはちょっと今の段階で調査している段階ですから、今の段階で確たるものを知っているわけではありません。」

ナレーター「自らの責任を問われると。」

麻生財務大臣「少なくとも原因究明と再発防止というのが大臣として与えられた仕事だと思えますけどね、いま。」

ナレーター「改めて辞任を否定しました。」

ナレーター「記者が検査データの改ざん問題で先週社長が引責辞任した神戸製鋼について触れると。」

(ここでは神戸製鋼の社長が記者会見で謝罪するVTRを放映しました。)

記者「社長は知らなかったといいながらも辞任された例がありました。改めて監督責任についてお聞かせください。」

麻生財務大臣「信頼回復というのが最も大切なのでその点に関しまして、私どもとして必要な対応を行っていくのが私の仕事だと思っております。～神戸製鋼というのは(不正が)20年くらい続いていたのかな？」

記者「はい？」

麻生財務大臣「俺が続いていたのかな？って聞いているんだよ。」

記者「長年にわたって…」

麻生財務大臣「その程度の調査か。それは今回のものと単純に比べられないような気がします。」

↓

続いて経済同友会・小林喜光代表幹事の記者会見の様子を放映。

小林喜光代表幹事「国民そのものが無視されたスタイル。非常に重要な問題。民間の場合は自分が知ろうが知るまいが、そういう不祥事を起こせば普通は辞める。その人の美学に関わらず普通は辞めることになっている。」

↓

今度は立て続けに政治家の声を放映。

ナレーター「政治責任を問う声は与党からも。」

二階俊博幹事長「これは一人役所の問題ではなく、政治の側もこうしたことをもっとしっかりと厳しく見つめていかないといけない。そういう責任は政治の側にもある。」

自民党・村上誠一郎元行革担当大臣「役人だけに責任を負わせることが本当に政治家としてやるべき姿なのか。例えば南スーダンの日報問題、稲田さん。加計問題の加計さん。今回の森友さん。はっきり申し上げて全部出発点は安倍さんだと思っている。トップとしての責任をもっと猛省していただきたい。」

↓

続いて菅義偉官房長官の記者会見の様子を放映。

ナレーター「しかし、政府は」

菅義偉官房長官「このような事態が起こったことについて全容解明する。そのために徹底した調査を行う必要がある。」

記者「麻生大臣には引き続き大臣の職を続けてほしいか。」

菅官房長官「昨日財務大臣ご自身で述べられたのではないかと思います。」

ナレーター「もう一つの焦点は佐川氏と昭恵夫人の証人喚問です。」

記者「国会での証人喚問は応じるのか。」

佐川宣寿前国税庁長官「国会の運営についての話でございますので、私から述べるのは差し控えさせていただきます。」

記者「国会から呼ばれたら応じるか。」

佐川前長官「国会でお決めになることでございますので、国会運営について私がコメントすることは差し控えたいと思います。」

ナレーター「野党 6 党は佐川氏や昭恵夫人の国会招致などが無い限り、国会での審議を拒否する構えです。ただ、与党は」

自民党・関口昌一参院国対委員長「まだその(証人喚問の)段階ではないと思います。財務省を挙げて調査をしてもらいたいということであります。」

公明党・山口那津男代表「もうちょっと冷静に考えていくべきだと思います。佐川前局長はもうやめているわけですね。民間人であります。」

ナレーター「与党は証人喚問に応じるつもりはありません。佐川氏も昭恵氏も民間人だから、というのがその理由です。」

立憲民主党・枝野幸男代表「民間人の籠池前理事長を証人喚問だといって押し切ったのは自民党です。総理大臣夫人は純粋民間人ではありません。佐川前長官も先日まで公務員として国民に対して責任を負っていた立場。今形式的に民間人だから証人喚問できないというのは、まったく理由にならない。佐川さんに出てきていただいて真実を語っていただくことは当たり前。安倍昭恵さんにも国会に出てきていただくのは当たり前です。」

自由党・小沢一郎代表「安倍さんの奥さんの昭恵さんのあれ(名前)が出てるんでしょ。最高権力のところから指示が直接的であれ間接的であれ出ていなければ、財務省の役人がいくら落ちぶれたとはいえこんなバカげたことしませんよ。そんなこと常識だよ。当たり前のことだよ。役人がこんなことできる度胸のあるの居ないよ。」

↓

ナレーター「新たに分かってきたこと。実意は国交省には契約当時、近畿財務局から大阪航空局に手渡された改ざん前の文書が残されていたのです。それに気づいたのは疑惑が報じられた今月 2 日のことでした。」

石井啓一国土交通大臣「3月5日に財務省に対して、後悔されているものと内容が異なる部分があることを伝えたくてコピーをお渡ししている。」

ナレーター「にもかかわらず財務省は先週の段階では改ざん後の文書しか国会に提出して

いませんでした。意図的に情報を伏せたということでしょうか。」

記者「大臣、国交省から文書を提供されたのになぜ公表しなかったのか？」

エレベーターに乗っていく麻生財務大臣へと記者が質問。麻生大臣の返答はありませんでした。

↓

続いて文書の書き換えが判明した後の流れを、自作のイラストを用いて説明。

ナレーター「財務省はこれまでに国会、検察、会計検査院にそれぞれ改ざん後に文書を提出しています。一方国交省は会計検査院に改ざんされる前の文書を提出。その結果、会計検査院には改ざん前と改ざん後の2つの文書があったことになります。」

野党合同ヒアリングの様子を放映し

野党議員「なぜ決裁文書が改ざんされたということに気付けなかったのか。」

会計検査院の職員「財務省からは『財務省側から提出されたものが最終版だ』と。～国交省経由のものは、例えばドラフト(草案)版だ。」

野党議員「じゃあもう一つ(国交省)の方はなぜあるのか。これは何なのかということ、そんなことすら気づかなかったのか？」

会計検査院の職員「気づかなかったというか、何というか、私共としても限られた人員と検査期間の中でやらせていただいている。」

ナレーター「財務省による改ざんの実態。」

野党議員「物理的に文書の文字を書き換えたのは本省の職員ですか？」

財務省理財局富山一成次長「まさに本省の理財局が中心となって、必要に応じて近畿財務局に指示をして書き換えをしているという実態は確認している。」

ナレーター「文書の改ざんは財務省本省が主導し、近畿財務局の職員が実行したといます。ただ、誰が何のために改ざんの指示を出したのかが何もわかっていません。」

↓

続いて

ナレーター「元検察官の大澤弁護士は今回の改ざんは虚偽公文書作成の罪に問われる可能性があることを指摘します。」

大澤孝征弁護士「わざわざ原本とは違ったものを作り出し隠した。一部をそれこそ削除して作った。それは国会提出用の文書を新しく作ったと見れますよね。国会に提出する権限のある人が行ったとしても虚偽公文書作成の罪に問われる可能性はあるし、国権の最高機関である国会に内容虚偽の文書を知っていて出すのは悪質極まりないということになります。」

↓

ナレーター「改ざんされる前の文書から見えてくるポイントとは。」

去年3月の参院予算委でのやり取りを放映。

自由党・山本太郎参院議員「このアッキード事件、総理のこれまでの国会発言にはずれが見られると思うんですよ。この問題誰よりも詳しい人に来ていただくしかない。安倍昭恵さ

ん。」

安倍総理「アッキード事件という言い方は、限度を超えているのでは超えているのではないかと思います。この問題の核心とは関わりなく。」

ナレーター「改ざんの前後を比べたとき、最も目を引くのは『これまでの経緯』という部分がすっぽりと消えています。その時系列をたどっていくと、昭恵夫人の名前が出た後、事態が動いた様子が浮かび上がります。最初に昭恵氏の名前が登場するのは、2014年4月28日に行われた、近畿財務局と学園側との打ち合わせです。」

ナレーター「安倍昭恵総理夫人を現地に案内し、夫人からは『いい土地ですから前に進めてください』とのお言葉を頂いたとの発言あり。」

ナレーター「そして、『昭恵夫人が小学校の建設予定地を視察した時に撮影されたこの写真を籠池氏が提示した』とも書かれています。この日、昭恵夫人は塚本幼稚園を訪れ、園児たちとも交流していました。」

2014年4月25日の昭恵夫人の訪問の様子を放映し、

園児たち「安倍晋三内閣総理大臣を一生懸命支えていらっしゃる昭恵夫人。本当にありがとうございます。」

昭恵夫人「もう感動しちゃいました。」

ナレーター「再び消された時系列に戻ると、1か月後財務局は学園側にこんな対応をとったとあります。『売り払いを前提とした貸し付けについては協力させていただく旨を回答。』土地取引が大きく前進した瞬間でした。」

↓

続いて去年4月の籠池泰典氏のインタビューを放映。

森友学園籠池泰典前理事長「我々の思い。政府の思いは当時は向かっていく坂の上の雲は一緒だったから。一緒にやっていると認識を持ったんだと思います。」

ナレーター「当時学園側は土地の買収を前提に8年間の貸し付けを求めていました。しかし、本来は3年以内が原則。それ以上貸し付ける場合には本省の承認が必要で、近畿財務局はそのための準備を進めていました。この間にも昭恵夫人は幼稚園を訪れていました。」

昭恵夫人「安倍晋三の家内の安倍昭恵でございます。安倍晋三さん知ってますか、皆さん。」

籠池前理事長「安倍晋三内閣総理大臣夫人、昭恵先生バンザイ」

ナレーター「翌月の2015年1月8日には産経新聞社のインターネット記事についてこんな記載が。」

ナレーター「記事の中で安倍首相夫人が森友学園を訪問した際に、学園の教育方針に感涙した旨が記載される。この翌日、近畿財務局は学園を訪れ、土地の貸付料の概算額を伝えたとあります。この後、財務省は学園側に特例として3年を超えて土地を貸し付けることを決定しました。貸し付けの4か月後には、昭恵夫人は名誉校長に就任。これはその時の映像です。」

昭恵夫人「この瑞穂の国記念小学院。何かお役に立てればいいなと思っておりました。コッ

らの教育方針は大変、主人も素晴らしいとっていて」

ナレーター「その後も学園側は昭恵夫人の名前をちらつかせながら、交渉を進めていきました。しかし、国会では。」

↓

続いて昨年3月の参院予算委での佐川宣寿理財局長(当時)の答弁を放映。

佐川理財局長(当時)「総理夫人の幼稚園訪問ということにつきましては、具体的な内容については存じてございません。」

安倍総理「(交渉)当時の(迫田)理財局長も近畿財務局長も妻が名誉校長であったことは知らなかったと。私の妻が名誉校長であることによって、値引きされたということにはまったくならない。」

ナレーター「誰が、何のために消したのでしょうか。肝心なところはまだ明らかになっていません。」

このナレーターの発言を最後にカメラはスタジオへと戻ります。

-----

富川アナ「うーん、だれが何のために改ざんしたんですかね。スタジオにはですね、元通産官僚で政治家に転身してからは官房副長官として官僚と向き合う立場も経験されました、松井孝治さんにお越しいただきました。松井さん、よろしく願いいたします。松井さん、官僚が自ら改ざんするということがありますか。」

松井孝治氏「いや想定できないですよ。役人というのはですね、最初に入った時に絶対嘘はつくなどと言われるんですよ。で、例えば野党とかに資料請求されたときに都合の悪いものは出さないというのがあったとしても、嘘はつくなどというのが役人の最初に叩き込まれる原則なので、ちょっとしかも財務省という役所はキャリアも優秀ですけど、ノンキャリアベテランと言われる人たちが非常にモラルが高くてですね。そういう方々が現場を押しえておられる役所でこういう改ざんが行われたというのはちょっと信じられないですね。」

富川アナ「そうすると、よっぽどの指示があったのか、よっぽどの忖度が働いたのか、何なんですかね。」

松井氏「いやちょっと一般的にはね解せないんですけど、ただ佐川長官の答弁を私もテレビで何度も見てましたけど、非常に財務省の組織防衛というのじゃなくてね、政権をここで守らなければいけないという意思が非常に強く働いていたと思うんですね。」

富川アナ「政権に対する忖度という。」

松井氏「まあ忖度という言葉がいいのかわかりませんが、ここで国会を止めてはいけないとか、ここは言い切らなければいけないとか。それが後に綻びとして出てくるわけですよ。で、そういうことから見ると、あれだけさっきのビデオで映っていたように詳しい経緯が近畿財務局にあったにもかかわらず、なぜ佐川局長は事前の価格交渉は無いとか政治家の関与は無いっていう風にあそこまで強く言い切れたのか。ちょっとそこがわからないんです

よ。』

富川アナ「佐川前局長が知っていて言わなかったのか、全く知らなかったのか。」

松井氏「知らなかったという可能性も、最初の発射核の段階でとにかく強弁してしまわれて、ひょっとして後にいろんなものが出てきたという可能性も否定できないと思いますね。」

富川アナ「そうすると佐川さんの国会招致というのも聞きたい気がしますけどね。」

後藤氏「当然そうなるべきだと思いますね。ですから与党側は国会全体の問題ですから、野党だけじゃなくて自民公明党もこの真相究明というのに対しては全力を尽くすという義務があるわけですね。そこに非常に及び腰になってる。そこに国会が空転している理由があるんだと思うんですね。」

富川アナ「あとやっぱりその、幹部人事をね各省庁の内閣人事局、つまり官邸主導で、まあ実権を握ってると、こういったことも問題なんですかね。」

松井氏「これはね、私は内閣人事局を導入するべきだといって来たのでね。(以下略)私は内閣主導で各省庁を横断で適材適所の人事を進めるというのは決して悪い話じゃないと思うんですよ。ただ問題はそのことで最近よく言われるように、ヒラメのような官僚が増えているんじゃないかという批判がありますよね。要するに上ばかり見ているという。そういう官僚としての最低限守らなければいけない中立性と公正性、あるいは倫理観。それを両立するような幹部がきちっと適材適所で進めてほしいと思うんですよ。(以下略)そういう官僚像をどうやって政と官が作っていくのか。それをもう一回考え直さないと思いますね、もう一回同じような事件が起こってしまいかねないと思いますね。」

富川アナ「その政と官の課題というのは後藤さん、昔から色々あったんですかね。」

後藤氏「これは昔から古くて新しい問題でですね、我々の時代にもよくありました。(以下略)。このこと自体が信じられないですね。」

富川アナ「そして先ほどもちょっと触れましたけれども、佐川さん。まあ一般になったということで国会招致あの中々与党としては踏み切れない部分も出てきてますけれども、麻生さんが追加の懲罰を示唆しましたよね。そうなるくともし佐川さんが国会招致されてもなかなか真実が言えないというのもあり得るんですかね。」

松井氏「ただそういう面もあると思いますが、やっぱり佐川さんの名誉のためにも個人的にも存じ上げておりますから、正義感をお持ちの方ですし、どういう経緯で佐川さんがああいふ答弁をされたのか。で、その後全然違う事実関係の文書も出てきた。しかもそれが書き換えられていた。やっぱりこれは単に役人が詰め腹を切られるというのではなくて、真相究明にきちっと協力していただく。国会に出ていただくことが全てかどうかわかりませんが、やはり本省理財局と、近畿財務局の間で何があったのか。どうしてここまで経緯が違っているのか。そこはきちっと語っていただくのがご本人のためになると思うんですね。」

富川アナ「そうですね。真実は明らかになるんですかね。」

後藤氏「そうですね、明日参議院の予算委員会集中審議が行われるんですね。これは今のところ野党はそれには出席しないと言ってるんですが、安倍総理も麻生副総理もここに出ます

ので、できればですね、野党はここに出てもらって、本当にまだまだ鉄が熱いうちにですね、真相をですね、これ表情からも色んなことがわかりますから、ぜひそこで審議やってもらいたいと思いますね。(以下略)」

富川アナ「やっぱり政治家としての責任を全うしようという気持ちもありますよね。」

後藤氏「ありますね。」

松井氏「これは野党だけが野党合同ヒアリングってやってますど、やっぱり与党も含めてね。政と官の関係に関わってきますから、これは国会全体としてどうあるべきかという議論。あるいは真相究明っていうのをしっかりやっていただきたいですね。」

富川アナ「しっかりと謙虚な気持ちでいくべきということですかね。」

松井氏「はい。」

富川アナ「松井さん今日はどうもありがとうございました。」

この富川アナの発言を最後にこのコーナーは終了しました。

-----

今回の放送の問題点は大きく分けて3つあります。

1 点目は意図的に映像を選別して、視聴者の印象操作をしているように感じられること。

2 点目は視聴者に誤解を与えるような番組構成になっていること。

3 点目はスタジオでの富川アナの発言に中立性が欠けているように感じられること。

以上の3点です。

1 点目についてですが、冒頭、番組は首相官邸前でのデモの様子を放映しました。そこにいる人々は一様に安倍総理大臣と麻生財務大臣の辞任を要求していました。その場面は2度にわたって放映され、視聴者の目と耳に大きなインパクトを与えたことは想像に難くありません。

また、記者がエレベーターに乗る麻生大臣に向かって質問する場面も放映しましたが、その場面では麻生大臣が全く回答していないような印象を与えるのには十分でした。

ほかにも神戸製鋼の社長が謝罪した映像を流したうえで記者による麻生大臣の監督責任を問う質疑を放映。その後、経済同友会の小林代表幹事の「民間の場合は自分が知ろうが知るまいが、そういう不祥事を起こせば普通は辞める。その人の美学に関わらず普通は辞めることになっている。」というコメントも併せて放映しました。

確かにこれらの映像はその日に実際に行われたやりとりであったり、記者会見での発言だったりします。しかし、これらを全て放映したうえで、近畿財務局と森友学園とのやり取りや、財務省による書き換えについてのVTRを放映したこと。これ自体は、視聴者に「麻生大臣が問題に直接かかわっているという印象」、「問題の性質が神戸製鋼の問題と同様であ



るという印象」、「(実際は経済団体のうち 1 団体に過ぎないにも関わらず、) 経済団体が麻生大臣が辞任しないことを非常識と考えているという印象」を持たせかねません。

編集による印象操作で視聴者に誤解を与える手法は、放送法第 4 条第 2 項「政治的に公平であること。」に抵触してはいないでしょうか？

次に 2 点目についてですが、番組は繰り返し昭恵夫人の名前をだしていました。その場面では籠池前理事長との親密さや、昭恵夫人が名誉校長を務めたことで売却が前進した可能性があることなどが伝えられましたが、あくまで昭恵夫人の関与は「疑惑」に過ぎません。それにもかかわらず、昭恵夫人と籠池前理事長が親密にしている様子を強調し、フェイクの可能性が十分にある「疑惑」が、すでに「事実」となったかのように報じていたのは、なぜなのでしょう？

これは、放送法第 4 条第 3 項「報道は事実をまげないですること。」に抵触しているように感じます。

最後に 3 点目についてですが、富川アナは「官僚が自ら改ざんすることは考えられるのか。」や「内閣人事局の創設が今回の事態を引き起こしたのではないか」などという質問を繰り返し述べていました。

そこから見えてきたのは、ゲストの松井さんに対して自らの意見を質問という形でぶつけ、思うように誘導しているのではないかという疑いです。

特に、「今回の問題は政権に対する忖度が生んだのではないか。」という趣旨の質問はその姿勢を典型的な質問のように思えました。この際には松井氏はこの言葉に対して否定的なコメントで応じていました。

これらのことから考えると、富川アナの言動は放送法第 4 条第 2 項「政治的に公平であること。」に違反している可能性があります。この問題をめぐっては事実関係に争いがあることを踏まえれば、より中立的な質問の方法があったのではないのでしょうか？

以上のように、報道ステーションは連日にわたって放送法違反を繰り返していた可能性があります。今後も監視を続けます。